

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

# 8/27なくすな! 久留里線集会 久留里・内房・外房<sup>守る</sup>3会合同開催



8月27日、「なくすな!久留里線8/27講演集会」が、久留里線と地域を守る会、内房線と地域を守る会、外房線と地域を守る会の3会合同での主催で開かれ、140名を超える方が集まりました。

講演は千葉商科大学の伊藤教授が「ローカル鉄道の価値」をテーマに行いました。質疑応答で多くの地域住民の方から意見が出され、「JRの説明は廃線ありきとしか思えない」などの声があがりました。

主催した3団体代表の発言を紹介します。

久留里線と地域を守る会代表・三浦さんは、会の結成から1ヶ月ほどの間に5691筆の

廃線反対署名が集まり5月17日にJR千葉支社に提出したこと、住民説明会で「廃線は困る」「昼間に5時間半も列車がないのは本当に不便。利用したくてもできない」など

多くの住民からの切実な声を報告し、「今後も取り組みを進めていく」と語りました。

内房線と地域を守る会代表・梅澤さんは、特急廃止・直通列車削減の問題や、内房線・外房線へのワンマン列車導入による安全性や通勤通学時の混雑の問題を訴えました。

そして、「山の中の家にも電線は引かれる。移動の足として必要としている人がいるならば、社会インフラとして維持すべき」「国鉄からJRになったといつても利益至上主義で良いわけがありません。地域の歴史や文化、経済、住民の生活をないがしろにすることは断じて反対します」と訴えました。

外房線と地域を守る会代表・早川さんは、ワンマン導入の3日後に太東駅で乗客がドアに挟まれ骨折するという重大事故が起こったことについて、JRがホームの段差やワンマン導入の責任を認めないこと、段差を解消しないことは放置できないと訴えました。

また、「久留里線を『赤字が酷い』と廃線に持ち込んだ次は外房線、内房線の一部を同じように廃線に持ち込むのだと思う」「多くの赤字線が廃止になれば地域に住み続けることが困難になる。JRの廃線化に対して地域をあげて取り組む」と語りました。